荒尾市立府本小学校　校長便り　№85

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年3月19日(木)

独り言

来週は卒業式である。時間が経つのは早いものである。先々週、強歩会に参加させて頂き、思い出に浸ろうと少し精神的な時間の速さを緩めていたがそんな訳にもいかない。

1年間を振り返り今感じていることは、支えていただいた皆様への「感謝」の気持ちである。私自身、普段の生活の中で気を付けていることが3点ある。「真摯な心」「謙虚な心」「感謝の心」である。その視点から我が身を振り返ると、反省するところも多い。しかし、反省点から来年度への課題や志向も見えてくる。それを活かし、令和8年度も「攻め」の業務に向かう自分でありたい。

来年度は、本校2年目の年、個人的には校長として最後の年であり、ある意味結果を求められる年だと思う。そういう意味でベクトルを揃えていきたい。

【独り言】加点法（ポジティブ）思考

大人は、子どもに対して「やればできる」「継続は力なり」と言い聞かせることがある。しかし、上辺だけの言葉では子ども達の心には響かない。成功体験や努力が実を結んだという体験など、経験や信念に基づいた言葉でしか、子ども達を奮起させられない。

今年の3月7日、43㎞の強歩会が実施された。一般的に考えれば多くの人は「長い」と考えるだろう。ここからの思考が重要である。もし、「長い」イコール「無理」となれば、実施そのものが無しになるであろう。ネガティブな思考は「出る杭」を打つのである。反対に「長い」イコール「面白そう」とか「ワクワク」とか「挑戦!!」とか「どうしたら完歩できるか」という思考になるなら、その時点で参加希望者は全員完歩したも同然である。そもそも、ネガティブな思考には「きついからいや」とか「面倒だからいや」という考え方が根底にあり、どうすれば実施、完歩できるかという発想にはならない。楽しもうという発想も無いので、嫌々ながら参加し、効果も中々上がらないのも事実である。

強歩会は経験的に考えて、教育効果も費用対効果も非常に高く、安全対策をしっかり講ずることができ、やる気さえあればできる行事である。まさに「やればできる」だ。「継続は力なり」も実感できる。平均して約8万歩で43㎞を踏破できる。今年の強歩会では1名の1年生が43㎞を踏破している。短い一歩でもそれを継続することで確実にゴールすることができるのだ。ある1年生が「強歩会に挑戦したい。」と言ったとしよう。保護者が「1年生だからあなたには無理よ。」と決めてしまったらどうだ。「大人が子どもの可能性の芽を摘んでいる」と言えるのではなかろうか。この考え方は、他の行事や活動にも応用できる。辛いことや苦しい事でも、先ずは取り組むことが大切であり、楽しく取り組もうと、発想を転換することで、大きな効果や成果を生むものである。

いわゆるコロナ禍以降、多くの行事が中止、あるいは内容が縮小されている。削減された行事の中には子ども達が心待ちしていた行事も含まれる。多くの行事にはリスクが伴う。しかし、リスクにしか目がいかなければ、行事の成功はおぼつかない。本校職員には校長として「どうすれば実施できるか?」という視点で行事を見直すように指示し、それに応え対策を講じつつ、多くの行事にチャレンジしている。教育効果が高く独自性適時性の高い行事が優先されたが、それでも子ども達は楽しんでいる。有難いものだ。令和8年度も本当に必要なものを見極めて学校運営に邁進したい。

シリーズ「自分を語る」#85

国際色豊かな熊本県国際課、当たり前ですが…。6月、韓国の研修員「崔きん」（チェさん）を滋賀県大津市でピックアップし、一路熊本へ。まず、大津市から京都駅へ移動し、そこからバスで大阪伊丹空港まで行きます。最も気を遣ったのは、迷子にならないかということでした。（どちらが?って感じですけど…）このバスの中では会話というより、身振り手振りと携帯電話による翻訳、それと韓国語会話の本が頼りの、まさに「多国籍中年公務員珍道中」でした。（チェさんは私より一つ年上でした。）チェさんも気を遣って私にお菓子を勧めてくれるのですが、韓国のお菓子でおっかなびっくり。でもここで断ったら国際問題だ?などと勝手に思い込み、意を決してお菓子を口の中に入れる澤田。味はともかく、というか分からないまま、大阪伊丹空港到着。再度、迷子に気を遣いながら、トイレ、食事、体調等に細心の注意をしながら、搭乗口へ。何とか熊本行きに乗れました。

その後、約1時間の空路を経て熊本空港到着。私は前日から車で空港まで移動していたので、そこからチェさんを県庁までお連れします。国際課で課員に紹介する為です。そこから、通訳を伴って宿舎へ移動します。携帯電話の手続きや補助金が振り込まれる通帳の手続きの為に、あちらこちらへと終日引っ張りまわしました。その日は取り敢えず終わり、次の日から他の留学生と同様、外国人登録、日本語研修等々の手続きに入っていきます。

さて、韓国の研修員についてのお話でしたが、そう言えばブラジルからの県費留学生2名については名前を言っていませんでしたね。この2人は日系2世なので日本名とブラジル名が併記されていました。県立大学の留学生は、レイナルドさん、崇城大学の留学生は、ジエゴさんでした。2人とも20代前半でしたが、日系社会ではエリートコースを進んでいる人たちです。ブラジルでは日系人は尊敬の眼差しで見られることが多いとか? それは勤勉性や誠実さによるもののようです。丁度この年、ブラジル移民100周年の年で、その歴史を学ぶ機会があったのですが、当時の移民1世は夢を抱きブラジルに渡ったものの、描いていたものとは程遠い現実に打ちひしがれたとか。でも、それにも負けず、広大な荒野を開拓し、コーヒーの一大農園を形成していったのです。そのような日本人の精神文化が、次第にブラジルの人の心に浸透して、現在のような日系社会が形成されていったそうです。そういった生活背景が留学生の考え方にも影響しているのでしょう、2人とも現在では世界中を駆け回るグローバル人材です。そんな人たちからたまにメールが来ます。ブラジルからだけでなく、あちこちからです。「今、仕事でイギリスにいます。この後、日本に行くよ。澤田さん東京まで来てください!」「行けるか~!」なんて思いながら、いつか彼らに会いに行こうと思う今日この頃。でもなぁ、ブラジル…、地球の裏側だ…。しかも時間がない…、いやその前にお金が無い!?いつ行けるとも分からないブラジルに思いをはせる澤田です。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）